

領域横断科目

専門分野

授業科目	周術期の看護	講師	①中島可織 ②尾場瀬雅裕	開講年次	単位・時間		
		所属	①専任教員 ②病院	2年次 前期	1単位 30時間		
		実務経験	①臨床看護師 ②手術看護認定看護師				
科目のねらい	周術期看護では、外科的治療を受けるあらゆる発達段階、健康段階の対象を多角的に看護実践する。そのため、外科的治療による侵襲をアセスメントし、その人の持つ回復力をいかに引き出せるかを考えることが重要である。術後の回復を促進するために予測と予防の観点を培い、基礎疾患が回復に及ぼす影響を理解し、その対象の特徴に応じた予測や予防を覚えるのではなく、深く考察できるようになる。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 術前、術後、回復期にかけてあらゆる発達段階の対象の状態の変化がイメージできる。 外科的治療による身体侵襲や術後合併症が心身に及ぼす影響を説明でき、観察と基礎的な看護実践ができる。 全身麻酔と腰椎麻酔の看護の違いを説明できる。 						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> あらゆる対象の周術期における外科的侵襲と術後合併症を予測し、予防の看護を考えることができる。 全身麻酔で手術を受けるあらゆる対象の術後の観察と看護実践をグループで検討し、発表ができる。 術後の継続看護の必要性を発達段階別に比較しながら明確にできる。 (セルフケア技術の習得を促す援助、療養生活の場の調整、多職種連携は各専門分野で学ぶ) 						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> あらゆる対象の周術期における看護を様々な文献を検索・活用しながらグループ間でディスカッションすることができる。 グループ間で役割分担しながら演習に参加し発表することができる。 						
科目評価	定期試験(筆記) 80% 課題・レポート(態度も含む) 20% 合計100%						
テキスト	系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 (メディカ出版)						
参考文献	周手術期看護 安全・安楽な看護の実践(インターメディカ)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	外科的侵襲と術後合併症予防と発症時の看護	○			尾場瀬雅裕	各専門看護学から からだの構造 からだの機能 日常生活から見る からだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	事前課題① 全身麻酔の術後合併症の発生機序・麻酔・挿管・人工呼吸器・身体侵襲・看護についてレポート シミュレーション 事後課題② 高齢者、小児、精神疾患をもつ対象の術後1日目観察と看護をグループで検討し、講義12～14回目で実践発表できるように準備、練習を行う。
2	(呼吸・循環器・消化器合併症、感染)	○					
3	(傷・検査値)	○					
4	術前看護(予測と予防看護)	○					
5		○					
6	術中の情報のポイント(出血量・時間・VS・尿量・体位をアセスメント)	○			中島可織		
7		○					
8	全身麻酔で手術を受ける対象の術後1日目の観察と看護実践(成人)	○	○				
9		○	○				
10	腰椎麻酔で手術を受ける対象の看護	○					
11	腰椎麻酔で帝王切開手術を受ける対象の看護	○	○			事前課題② 腰椎麻酔で手術を受ける対象の看護のレポート	
12	高齢者の術後観察と看護(実践発表)		○				
13	小児とその家族の術後観察と看護(実践発表)		○				
14	精神疾患をもつ対象の術後観察と看護(実践発表)		○			課題③ 周手術期の看護師の役割のレポート	
15	周術期の看護師の役割		○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						